

2022年度SoTLプロジェクト成果報告会 質疑応答一覧

質問先	質問内容	回答（発表者記入）
1 岡部先生（発表①）	ご発表ありがとうございます。聞き漏らしがもしもありませんが、①適用した科目、②科目の評価に反映したか否か、をご教示ください。	ご質問ありがとうございます。適用した科目は「ライフデザイン演習」（1年次のアカデミックススキル養成などを目的としたゼミ的な授業）です。また成績に反映していません。
2 若谷先生（発表②）	ご発表ありがとうございます。アドバイスカードはどのようなものか教えてください。また、今回の取り組みでの効果などもご教示頂けると助かります。	ご質問ありがとうございます。アドバイスカードは模擬保育後の討議では十分ではないため、①感想と気づき②アドバイスという形で課題として出しています。前期・後期でアドバイスの内容についても分析したところ、後期の方がより「子ども」というワードが多く、例えば子どもには難しい、このようにすれば子どもも主体の活動になるのではないかと内容に変化していたことが印象的です。今回の取り組みの振り返り・反省しても子どもならどうするかという視点が欠けていた点を挙げている学生が多く、主観的対話的な活動になるだけでなく、学生の意識の変化も感じられたと思います。
3 清水先生（発表③）	ご発表ありがとうございます。聞き漏らしがあるかもしれませんが、発問をニュース視聴より先にする取り組みはされましたでしょうか？	ご質問ありがとうございます。視聴1回目→主発問→視聴2回目→様子を見て追加発問…の順で行いました。したがって、ニュースに関してたずねる「主発問」は、視聴前には行っていません。ただ、視聴1回目の前に、ニュースを聞く準備としてクイズをした回があります。「主発問」はしてませんが、「事前発問」にあたる補助的な発問をしたと言えます。
4 茂垣先生（発表④）	ご発表ありがとうございます。二点ほど教えてください。①理解度向上には何が効果ありましたでしょうか？②受講者はRBIに書かれた内容を理解して取り組まれていましたでしょうか？（経験上、書いてあることが読めても、その内容を理解できない学生さんがいるので、この質問をしています）	ご質問ありがとうございます。以下お返事いたします。 ①理解度の向上について、直接尺度などでは確認していませんでしたが、学生の全体的な理解度に関する別のコメント（授業内）の回答を整理すると、多い順に「担当教員の授業内での説明や資料」「ルーブリック」でした。伝記分析は自分で本を読み進み、データとして各文章を整理する作業と、心理学的な分析をするための概念理解（授業内で学ぶ）すること、さらにこの両者を融合して「この具体的な発言は心理学的にはどのように分析できるのか」といったプロセスが必要となります。そのことを説明し、授業内でワークなどを行うことで学ぶ作業が理解度を向上させていると考えています（まだ数量的には未検証です）。 ②ルーブリックの内容を理解しているか→確かにその懸念はあると思います。授業内では、ルーブリックを最初に具体例を挙げながら口頭で説明し、質問がある場合には申し出るように伝えました。ですので、きちんと取り組んでいる。授業を聞いている受講生には伝わっているのではないかと認識しています。質問には直接あるいは多い質問には次の授業で説明しました。この授業ではレジュメを段階的に（分析の進み具合で）2度提出させ、それに基づいてグループ内で発表・質疑応答をさせています。そのプロセスで理解していない受講生には担当教員から個別に、また全体として指摘・アドバイスをしました。ただし、授業には出席してもきちんと説明を聞いていない、指摘があっても対応しない受講生は若干名いました。どうやってモチベーションを上げるかが、また別の課題です。
5 高梨先生（発表⑤）	印象レベルのもので結構ですが、こうした試みを行ったことによってアウトプット（例えばレポートや発表の出来など）は変化したのでしょうか。	ご質問ありがとうございます。プロソシヤルを導入した際には直接的に意図したことはありませんでしたが、私のゼミではこの授業自体のアウトプット、すなわち心理学研究の質は向上していました。結果でお示したようなコアポレーションが上手く機能した成果ではないかと考えます。
6 高梨先生（発表⑤）	ご発表ありがとうございます。PROSOCIALは工学系でも使えるのではないかと感じました。ついては、有用な書籍や公開ツールなどご教示頂けると幸いです。	ご質問をくださりまして、誠にありがとうございます。今のところまだ日本語での資料が限られており、Atkins, W. B. P., Wilson, S. D., & Hayes, C. S. (2019). Prosocial: Using Evolutionary Science to Build Productive, Equitable, and Collaborative Groups. Oakland, CA: Context Press.を頼りに進めています。
7 五月女先生（発表⑥）	ご発表ありがとうございます。昨今の学生さんを見ていて、コスバ思考で余計なことばない、普段の生活は便利、なので論理思考の必要性を感じていないと思います。論理思考の必要性やこういう場面で役に立つなど、学習意欲を喚起する知見などあればご教示ください。	ご質問いただきありがとうございます。論理的思考の必要性については、プレゼン資料を作成することを通じて説明し、『大学生に向けて〇〇を勧める』というテーマで資料を作成する課題を出しています。学習意欲を高めるための取り組みについては、現時点ではどの方法を試してもうまくいっていないと感じています。もし、よい方法があればお教えいただけますと幸いです。
8 安部先生（発表⑦）	ご発表ありがとうございます。授業外学習に対して、点数化するなど学習へのインセンティブは付与しましたでしょうか？	ご質問をありがとうございます。授業外学習を取り組んだことによるインセンティブは設定していません。授業のはじめの段階で、成績評定について説明し、授業外学習の成果により加点することを伝えていました。授業外学習に取り組まなければ、得点が加算されない仕組みです。授業態度の評価のひとつとして、「授業外学習を取り組んだこと」に対してプラスすると、参加は継続したかもしれませんが。
9 原先生（発表⑧）	有意義なご発表ありがとうございます。コメントになりますが、学生さんと接する限り、高校までの歴史は、暗記もののようなので深い学びに持っていくのに大変かと思えます。今回の発表を聴いて、日々の授業で与える動画や映画を見なさいになっていけばよかった次第です。日々の教材を見直す良い機会になりました。	コメントありがとうございます。授業中に話だけでは想像ができないだろうと映像資料を使うことは私自身も多かったのですが、受け取る学生からすると教員が考える以上に、あまり響いていないということが、大変ショックでもあり、最も反省させられる点となってしまいました。自戒を込めてご報告させていただきます。
10 生島先生（発表⑨）	充実したご報告、誠にありがとうございます。とても興味深く、有意義なプロジェクトだと思います。2点ほどご質問させていただきました。1) プロジェクト調査にフィールドワークなど、それぞれどれほどの時間をかけて実施されましたか（とても準備が大変なものだと感じたため、このような質問をさせていただいています）、2) また、「シティズンシップ」の育成に時間が要される印象があり、先生の問題意識にありましたように、学生がなかなか「自分事」としてとらえていないところからプロジェクト実施したとおっしゃっていましたが、プロジェクト実施後、学生のシティズンシップに対する姿勢に変化がみられましたか。恐れ入りますが、ご回答のほど、どうぞよろしくお願いたします。	ご質問ありがとうございます。 1) で、学生の事前学習としまして、日野の調査については年度当初に公民館職員に来学していただき、日野市の状況や公民館の特徴などを講話いただきました。また、学生が継続的に公民館事業に携わらせていただいております。館長のNPOの方はHP上に資料が充実していますので、事前にしておくように伝え、さらにフィールドワーク当日は、まず座学により概況を説明していただいた後で実際に赴いております。また、教員側の準備としましては、学生の学びの準備、学びの場の整備として先方の職員・スタッフと入念に打ち合わせをしており、コーディネーター的な役割が大きくあると感じております。 2) についてですが、一朝一夕に、目に見える形で変化を見ることは難しいですが、一つには、社会参加の一步として、公民館などへのボランティア活動や地域の市民主催イベントを見つけてきて自主的に参画する学生が出てきた、ということがあります。こうした活動により、障害者、LGBTの方々、外国籍の子どもなど、また地域で活動する団体や機関などが認識され、関心を持ったり視野を広げている姿は感じられるようになりました。
11 安岡先生（発表⑩）	有意義なご発表ありがとうございます。取り組みの中ではなくて申し訳ないのですが、到達目標にある、…意識できる、はどのように到達度を評価されているかご教示頂ければと。今後の授業改善の参考にさせていただきます。	ご質問をいただきましてありがとうございます。自分流はお話ししましたように自分で課題を設定して、自分で考えて行動し、とった行動に責任をもつということですが、一つの授業でこれができるようになるということはかなり困難なことです。意識できるとはできるように常に意識しているというところが到達点と考えています。実際の測定は自分流が意識できるに対して、とても思う、そう思う、どちらとも言えない、あまりそう思わない、そう思わないの選択で、とても思うと思うの両回答の和の割合を出しています。ありがとうございます。
12 蔡先生（発表⑪）	有意義なご発表ありがとうございます。留学生、日本人学生を問わず、書く力は低下していると実感しています。最近、Chat GPTが話題になっていますが、使っている時時折あり得ない回答することに気づきました。IT機器に慣れた学生さんたちにあえてwebなどのツールを使わせて、嘘を見破れるか、こういう仕掛けもありかなと思います。質問というよりコメントです。	コメント、ありがとうございます。AIの精度が高くなり、普及されている現状では、言語教育に限らず、留学生・日本人学生という区別に関係なく、情報リテラシーと読み書きの能力を向上させていかなければいけない、私も思います。ちなみに、日本数学会 (2012) は、「『大学生数学基本調査』に基づく数学教育への提言 (https://www.mathsoc.jp/comm/kyoiku/chousa)」として、調査の結果、「(1)読解・表現など国語力 (2) 抽象的・論理的思考力 (3) 知識に対する意欲や忍耐力といった、ごく基本的な能力が学生の間で低下しつつあるという現実が浮き彫りになった」と指摘しています。これはおおよそ10年前の調査ですが、直近ですと、「大学生数学基本調査」の調査事務局責任者を務めた新井紀子先生が執筆された『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』（2018）や、石井光太『ルボ 誰が国語力を殺すのか』（2022）なども読解力の低下を指摘、報告しています。今後、技術がさらに発達していくと予想されることを考えると、今の大学生にできるだけ高度な読み書きの能力を身につけてもらうことは急務とも思えます。